



日本の緑化事情 / 屋上緑化で使用する土壌について

緑化に無くてはならないものとして、土壌があります。人工的な緑化です。天然の土壌と同じと言つことはできません。

天然との最大の違いは「深さ」と「広さ」です。屋上緑化の場合には既存の建造物に設置する為にスペースの制約があります。天然のように毛細管現象を利用するような広さでも深さもありません。給排水を鑑みた土壌が必要になります。

建造物の上に敷設されることから荷重も加味しなければなりません。天然の土を持つてきてそのまま使用することは出来ません。

特に屋上緑化では、保水性・通気性・透水性を考慮した天然土壌よりはるかに軽いものが求められます。

また、PH値も考慮しなければならぬことから、有機・無機の長所をあつめた人工土が主となっています。大日化成の屋上緑化資材・VUSシリーズで

は、水を均一に拡散する軽量培土に人工ゼオライトを配合しました。

人工ゼオライトとは、アロフエンの表面を陽イオン活性化し、高陽イオン交換容量を特長とします。植物の生育に必要な肥料成分や微量元素を吸着・放出することでバランス性を発揮する優れた性質があり、土壌に加えるとバランスを維持する機能により、土壌のpH、保肥性を向上させ緑化植物の生育安定に寄与します。

VUS500に配合した、人工ゼオライトは天然ゼオライトの20倍(社内試験値)のイオン交換容量があり、セダム植物の生育安定性を向上させます。

このように、ある意味草木が繁茂するには過酷な条件で有る屋上緑化でも、生育安定性を向上させる工夫が凝らされています。

大日製品現場レポート 大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。



今号より様々な現場で使われている大日製品について紹介するコーナーが始まります！

今回は、薄層緑化ユニット「VUS500」が採用された某ガソリンスタンドの現場について紹介します。このガソリンスタンドは新設の予定で、敷地面積に対して一定の緑地面積の確保が必要になるとのことでした。建設場所は大阪市内で交通量の多い道路沿いに位置しており、少ない敷地面積の中で緑地の確保と土壌上部への設置は非常に困難です。そこで、ガソリンスタンド事務所の金属屋根部分なら基準を満たす設置スペースの確保が出来る」と提案し、弊社「VUS500(金属屋根仕様)」で施工する事になりました。

金属屋根の形状はたくさん種類がありますが、屋根形状に合わせた固定金具を使用する事で、様々な形状

に対応しているのと、緑化ユニット自体も軽量で金属屋根に直接接することがないので、屋根に過剰な負担をかけることがありません。植物は屋上緑化に適したセダム類を採用しており、複数種のセダム植物を使用することで現場環境によってすぐ枯れることがないシステムを採用しています。施工に関しても、必要領が分かれば比較的スムーズに進めることができる仕様ですので、無事工期内にガソリンスタンドの作業スペースを減らす事なく、緑地の設置を完了する事が出来ました。最後に緑化を考えている方が、是非弊社「VUS500」をご検討のほどよろしくお願致します。

本社営業部 土佐

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.

●本社
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13
TEL : 06-6909-6755(代) / FAX : 06-6909-6702

●東京支店
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F
TEL : 03-3436-3801(代) / FAX : 03-3436-3803



次号も
お楽しみに

URL : <http://www.dainichikasei.co.jp>

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

Vol.50

映画で学ぶ 環境問題



JFK
原題：JFK

監督：オリバー・ストーン
脚本：オリバー・ストーン
ザカリー・スクラー
出演者：ケビン・コスナー
トミー・リー・ジョーンズ
ゲイリー・オールドマン
ケヴィン・ベーコン
上映：189分
配給：ワーナー・ブラザーズ
公開：1991年

「コロナ禍の今年、再注目されるケネディ家」というのも、トランプ大統領の支援者に「Q」という集団がいて、彼らはJFKジュニアの存在を匂わけているからです。Qによると「父を殺されたジュニアは、復讐と正義のために自分の死を偽装したうえで、親友のトランプと協力して「闇政府」を追い詰めている！」と語っています。

Qはジュニアの墓のデザインであり、この計画は20年にわたり綿密に練られたという話です。もう一つは、JFKと同じように暗殺されたRFK上院議員の息子ロバート・ケネディ、トランプの要請を受けてワクチンの安全諮問委員トップを務めていた彼が、今回のコロナ騒動の実態を暴こうとしているからです。ロバートは優秀な弁護士で、「ラ

ウンドアップ」という除草剤がガンの原因として、1人の患者に約300億円の損害賠償を勝ち取りました。そのため世界中で同様の裁判が数多く起こされ、結果、いま日本にこの影響が出ています。

「ラウンドアップ」は、その猛毒性により世界中で禁止になったため、余剰在庫は規制のゆるい日本で猛販売されており、百貨やホームセンターに並ぶ除草剤は、大半がこの系統なのです。しかし国内では報道されないため、日本人は知らずに使い、その土壌汚染は今後、何世代にもわたって私たちの子孫を、ガンや深刻な病気の危険にさらすのです。それを示したのがロバートです。

彼は実績ある反ワクチン運動家としても知られ、新型コロナについても「ビル・ゲイツらが恐怖で人々を従属させ、富を奪う気だ」と訴えます。

この話も日本では報道されないため「謀論」と笑う人が多いのですが、今や全米FOXニュースでも「コロナ騒動こそ、ゲイツやテドロスが組織的に仕組んだ詐欺！」と報道し始めました。露公放送も「ゲイツ財団による、これまでのワクチン被害は50万人」と報道し、伊国会でも「ゲイツによる人道逆罪」と報道が増えました。なぜなら、アフリカやインドでゲイツ財団がおこなうポリオワクチン投与では、自閉症や重度障害、死亡率まで急増しているからです。また、反ワクチン医療者がこの数年で1000人近く不審死を遂げたこともあり、ヨーロッパでは医師を中心に、ゲイツ批判の大規模なデモが各地で開催されています。「重病患者を作り出し、製薬利権で儲けるゲイツを逮捕しろ！」と。

余談ですが、日本では、ウイリステロのドラマ「ブラッディ・マンデー」出演者からみれば、わずか3ヶ月間に立て続けに3人も自死したとされています。一部ファンが騒いでいます。クローゼットで見つかった共通点や、身長より低いクローゼットで自死できるのか？といった不審点について。

さて、食糧やエネルギーの限界を考えると人間は多すぎると、ビル・ゲイツは何年も前から「ワクチンで人口抑制」を公言しています。昨年10月にはハンデミックの予行演習「イベント201」も主催していました。そのものスバリ「新型コロナ」の予行演習です。

しかし日本のメディアで、これらの報道はされません。日本語の検索結果にも、ほぼ出ません。真逆の報道「だけ」は入ってきます。まるで中国のように、情報統制されているようです。そういえば日本は報道の自由度ランキングで、ワイルド日本といふアフリカ諸国よりも低い66位です。

世界で急がれるワクチンの開発。その出資者であるゲイツやロックフェラー達こそ、これまで車産複合体や国際金融資本と呼ばれる「闇政府」だと反ワクチン運動家らは言います。

実際にアメリカでは、早くも2004年の段階でワクチンの毒性が、政府公聴会でも追求されました。しかし、いつの間にかウヤムヤにされています。

アメリカ対中国のような対立構造に見えても、背後にいるのは同じ連中であり、人々を貧民化させる利権集団と運動家達は言うのです。

今回の映画「JFK」は、実在の検事が暗殺事件の捜査に執念を燃やし、闇政府と戦う状況を描いています。同じ事件の映画「ダラスの熱い日」でも「暗殺犯は闇政府」説が織り込まれています。60年前の話なのに「人口削減を興味深い」と。

糾弾者はいます。「闇政府は、欧米問わず中国も日本もどこの国であっても、政府中枢に深く入り込んでいる」と。そんなバカな！と笑いたくなる話ですが、当初はバカにされた「新制コロナ生物兵器説」もや、各国にもその前提で対策をしていますが、「ハワイ」どころか世界各地で長期渡航が禁止された。ウソのような現実があるのです。

さて、闇政府を追及するトランプもQは英雄のように言いますが、彼もまた、そこそこの時には、目だけを白く残してオレンジ色にメイクします。まるで闇政府の象徴であるワクチンのように。そしてケネディ家はトランプと対立する民主党政権下で駐日大使を務めた女性がいま

このように、謎と闇が見えるコロナ騒ぎ。今度は、中国がパキスタンとまた新たな生物兵器を開発中と海外で報道されました。情報が交錯し、CDCでさえ言うことが二転三転する日々。

何か本当か？報道されない真実があるのか？ワクチンは打つべきなのか？情報統制は厳しいですが、ぜひ皆さんも自分で調べてみてください。(敬称略)